

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ゼロカーボン長野プログラム 2022
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人CO2バンク推進機構 (長野市稲里町中央三丁目33番23号)
事業区分	(5)環境保全、景観形成
事業タイプ	(1)地域協働の推進
総事業費	4,875,805円 (うち支援金: 3,900,000円)

### 事業内容

ゼロカーボン社会の構築および地球温暖化防止活動の普及啓発のため、5つのプログラムを実施。

- ①グリーンインフラ体験活動 (6/16~8/10の56日間)
  - ・長野駅善光寺口駅前広場で緑化スペースを設置
- ②リサイクルラボ (7/16~7/18の3日間)
  - ・リサイクルによるゼロカーボンのワークショップ
- ③ゼロカーボンさみっと2022 (7/29~31の3日間)
  - ・ゼロカーボンの体験、展示等の普及啓発イベント
- ④グリーンインフラフォーラム
  - ・オンラインシンポジウムの開催とWebでの配信
  - ・5会場でのパネル展
- ⑤エコマラソン長野2022 (9/17~18の2日間)

### 事業効果

- ①善光寺御開帳から盛夏までの間、長野駅前広場で緑化スペースを提供することで、駅利用者、来訪者にグリーンインフラを知ってもらう機会となった。芝生にすることで表面温度が1.2℃下がる効果が実証できた。
- ②親子参加でのワークショップを通じて、楽しみながらゼロカーボンへの理解を深める機会となった。クイズなどを取り入れ、幅広い年齢層への浸透を図ることができた。
- ③小学生・中学生とご家族など幅広い年齢層への普及啓発活動ができた。ライブ配信、収録配信を取り入れたWebの活用で事業効果を増大できた。

### 今後の取り組み

ゼロカーボン社会の構築および地球温暖化防止活動の普及啓発のため、都市緑化、リサイクル、省エネ・再エネのテーマごとプログラムを実施することができた。オンライン配信なども積極的に活用し波及効果を高めた。引き続きこのプログラムの内容を充実させることで、ゼロカーボン社会に向けた普及啓発活動の発展が期待できる。

また、所期の目的であった行政機関や関係団体、企業、市民有志などさまざまな主体との連携の機会が継続的に実現できたことから、今後もこうしたネットワークのプラットフォーム機能を継続、拡大していきたい。



【グリーンインフラ体験コーナーの様子】

### 【目標・ねらい】

- ①関係団体等の連携
- ②ゼロカーボンの普及啓発
- ③新たなムーブメントの醸成
- ④一人一人が実践できる活動提案

### ※自己評価【A】

#### 【理由】

- ・実施時期と場所、テーマを5回に分散して波及効果を高めた。
- ・4,797人の参加者があったほか、Web等でさらに多数の市民に訴求できた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野みらい環境フェス～チャレンジ・ゼロカーボン！長野の四季を守ろう～
事業主体 (連絡先)	公益社団法人長野青年会議所 長野市大字鶴賀七瀬中町 276 長野商工会議所内 3階 080-5826-1199 (岡本)
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,441,862 円 (うち支援金：1,953,000 円)

### 事業内容

- 1) 概要：環境課題解決に資する製品・サービスを展開する県内事業者、および環境課題解決に取り組んでいる事業者・団体・学生などを招聘し、出店（出展）・発表を中心とした「環境フェス」を開催しました。
- 2) 開催日時：2022年9月17日 10:00～16:00
- 3) 開催場所：ながの表参道セントラルスクウェア
- 4) 対象：長野地域の住民、および長野地域に拠点を置く事業者
- 5) 参加者実績：会場来場者のべ 2,500 人（ファミリー層の来場が 8 割以上を占めました）
- 5) 実施方法：長野青年会議所の会員において事業全体の運営を行いました。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①来場者アンケートは、どの項目も 9 割以上が好意的な回答となりました。
  - ②来場者の声として、「来年も続けてほしい」「家族でもっと環境問題に取り組みたい」という感想が多数を占めました。
  - ③長野県ゼロカーボン戦略をはじめとした取り組みの周知により、来場者だけでなく出展事業者にも取り組みの重要性を伝えることができました。
- 以上により、長野地域における環境問題に対する意識向上及び取り組みの推進に寄与したと考えます。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

当会議所は単年度事業であることから、次年度に向けた事業の継続はできません。しかし一方で、当フェスの中で発表した「アントレプレナー育成事業」において、各チームの取り組みは地域の環境問題解決に資する具体的かつ実践的なアイデアとなりました。これらのアイデアはすぐにも実施可能であることから、ぜひ来年度に向けて行政でも取り上げていただきたいと思います。また、事業に参加した当会議所メンバーを中心に、フェスに参加した事業者と連携しながら来年度も引き続き環境意識の向上や取り組みの推進に資する事業を行っていく予定です。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【フェスの様子】

### 【目標・ねらい】

- ①環境問題に対する意識の向上
- ②環境問題の取り組み推進
- ③長野県における環境問題への取り組みの周知

### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

- ・環境意識が比較的低いファミリー層の来場者が 8 割以上を占めた
- ・全てのアンケート結果で 9 割以上が好意的な回答となった
- ・3 連休初日であったため、来場者が想定よりも少なかった

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

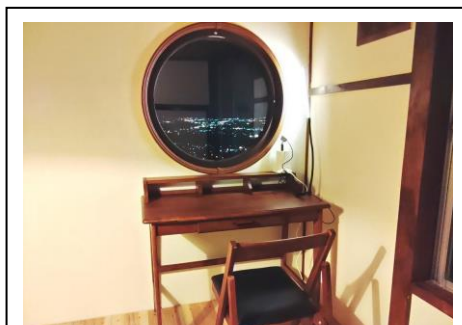
事業名	姨捨の棚田農業体験交流とリモートワーク (観光以上移住未満)
事業主体 (連絡先)	名勝姨捨棚田倶楽部 (千曲市大字八幡 4966-2) 担当: 三ツ井 (090-1868-3238)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード事業
総事業費	3,140,012 円 (うち支援金: 2,363,000 円)

#### 事業内容

平成 29 年度に当支援金活用事業で整備した「姨捨の棚田 OASIS」(都市と農村交流拠点) の追加整備

- ・リモートワーク、ワーケーション対応用に展望窓設置
- ・農産物、イベント用品保管用の物置整備
- ・イベント対応用品整備 (イス・テーブル等購入)
- ・電動バイク購入 (水田管理、棚田周辺周遊散策用)

各種体験会の開催、1 年を通した稲作農業体験 (延べ 6 回 121 名参加)、オオルリシジミ保存活動 (延べ 3 回 38 名参加)、ピザ焼き、薪割り体験、壁塗りワークショップなどの空き家リノベーション体験、リモートワーク体験会 (期間 1 か月で 3 回応募)、社会人、学生らとの農業体験交流活動の継続、学習・研究活動支援。



【改修作業の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 姨捨の棚田担い手確保
- ② 都市部との交流拠点整備
- ③ 二地域居住、交流人口の促進
- ④ ゼロカーボン農業地域、農村観光

#### 事業効果

各種交流事業、イベント開催により、**約●●人の参加があり**、農業×移住×空き家リノベーション×地域交流のベースプランの定着化、**以上のような**大人数のイベント開催も可能な施設に整備できた。

コロナ過においても、農村部の魅力を伝え、限定的ではあるが移住や農村交流を継続することが出来た。

電動バイクは、年々性能が上がっており、姨捨の棚田の狭い急傾斜地でも十分な走行性能を発揮しており、毎日の水田管理や棚田エリアの散策、周遊に活用、**2050** ゼロカーボンに向けた取り組みをスタートすることが出来た。

#### ※自己評価【B】

【理由】  
長期にわたり、さらなる成果を求められているため、次年度以降も交流活動を積極的に進める必要がある。コロナ第 6～8 波があり、規模を縮小せざるを得なかった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

棚田耕作者の高齢化や若者の農村離れによる耕作放棄地を減らすため、農村交流により担い手を確保する活動を継続。一過性のイベントではなく、事業継続、拡大しながら新たな取り組みを展開し続けていく。地方移住の在り方や、働き方、様々な人生設計のニーズにマッチさせることで都市部と農村の交流、活性化をはかる。特に学生らの農業体験学習、地方活性化研究支援など次世代、将来的に発展性のある取り組みに力を入れていきたい。

新型コロナウイルス終息後は、大人数での体験会も可能な施設となったことから、時期を見ながら効果的な取り組みを展開する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	未利用有機資源を活用したバイオ炭の生産・利用の実証事業
事業主体 (連絡先)	小布施町 (電話番号: 026-214-9100 メールアドレス: soumu@town.obuse.lg.jp)
事業区分	主となる区分: 環境保全、景観形成 (関連する区分: 産業振興、雇用拡大)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	5,940,000 円 (うち支援金: 3,960,000 円)

### 事業内容

町は、ゼロ・ウェイスト（ごみを出さない町）の達成へ向け、町内可燃ごみの約4割を占める有機資源の循環施策の一つとして、土壌改良材や燃料等に使用できるバイオ炭化の実証を開始した。

<令和4年度の実証内容>

- 購入した炭化装置を6回稼働し、ノウハウを蓄積
- 農家へのヒアリングや回収の試験実施から「有機資源循環カレンダー」を作成、最適な回収方法を把握
- 活用について協力農家や近隣の自治体・事業者と協議

<令和4年度実施概要>  
9月: 購入 11月~2月: 実証 12月: 現地視察会  
実施場所 (設置場所): おぶせフラワーセンター

### 事業効果

<可燃ごみの削減量>

6回稼働したことによる削減量: 9トン

<温室効果ガスの削減量>

土壌改良材として使用の場合: 4.7619 トン-CO2/年

<循環利用促進に向けた定性的な効果>

- 町内有機資源の排出時期の把握による循環利用促進
- 町内農家の剪定枝処分に係る手間の低減
- 炭化工程に係るデータ・知見の獲得

### 今後の取り組み

今年度事業で町内有機資源の回収や炭化に係るデータ・ノウハウを得られたことで、ある程度の生産量や炭化のサイズごとに用途や販売先の目途を立てることができたため、令和5年度以降は引き続きデータ・知見の蓄積を図りつつ、バイオ炭の活用・販売の実証を中心に進めることを検討している。その一環として、町内外の人々が多く集まる町民主催のイベント等と連携し、取り組み内容の普及広報を行うことで、蓄積されたデータ・知見と共に他地域への横展開も目指す。

また、回収した剪定枝では、サイズの大きい（直径が太い）ものも多く、炭化に相当の時間を要するものもあるため、これらはチップ化することで木質バイオマス熱利用を推進し、一層の温室効果ガス削減に寄与することも検討中である。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【炭化装置と剪定枝】

### 【目標・ねらい】

- ① 有機資源の焼却処分量削減
- ② 温室効果ガスの削減
- ③ 町内主体と連携した資源循環の促進

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

- ◇ 炭化炉を購入し、実証を開始することができた
- ◇ 有機資源の回収や炭化に係るデータ・知見を期待通り得られた

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	古海の里を知る、楽しむ、考える事業
事業主体 (連絡先)	美しい古海の里保全委員会 上水内郡信濃町古海856-1
事業区分	環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	383,985円 (うち支援金: 300,000円)

#### 事業内容

古海地区は、日本の原風景が残る魅力的な地域である一方で、山間の不便な立地であることで人口減少が進行している。

しかしながら、古海の豊かな自然・集落環境に魅せられた移住者は例年常に一定数いる。

本事業は、そうした古海地区の良さを改めて理解・実感し、特異性を活かした地域づくりを地域一体となって遂行していくために実施した。今年度は、里山に生息する生物の調査・保全活動等のフィールドワークとシンポジウムを実施した。

- ・ホテルに関するフィールドワーク (7月) 36人
- ・水生生物に関するフィールドワーク (8月) 48人
- ・ギフチョウ、ヒメギフチョウに関するフィールドワーク (10月) 17人
- ・地域づくりに関するシンポジウム (3月) 20人

#### 事業効果

①地域資源や特異性に関心を持つ住民の増加に寄与する  
延べ101人の方々にフィールドワークにご参加いただいた。次年度の環境整備や観察会実施の要望を受けるなど、関心の高まりをうかがえた。

②アイデアの共有や協働できる機会の創出とそれら参画者の増加  
20人の方々にシンポジウムにご参加いただき、来年度に向けた活動のアイデアや計画、地域における検討課題の共有ができた。

③地域のイベント・活動計画の策定  
来年度のフィールドワークの開催計画: 2件  
活動計画 (アイデアベース): 8件

#### 今後の取り組み

引き続き古海地域の一大資源である里山環境を保全、それらを活かした地域づくりを継続する。当団体は地域住民のアイデアや意見を集約・共有し、計画遂行におけるサポートや事務作業を担い、地域住民の協働に寄与することを目的とし活動する。

なお、来年度計画したい活動として (ホテル、ギフチョウ・ヒメギフチョウに関するフィールドワーク、有機米づくり勉強会、ホテル鑑賞におけるマナー啓発パンフレットの作成、搾油用ひまわりで耕作放棄地の活用、水車導入の検討、古海の歴史・文化の集積、空き家・危険建物の整備等) が挙げられたので、順次計画、遂行を予定する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【ギフチョウ、ヒメギフチョウの生育環境整備(フィールドワーク)】

#### 【目標・ねらい】

- ①地域資源や特異性に関心を持つ住民の増加に寄与する
- ②アイデアの共有や協働できる機会の創出とそれら参画者の増加
- ③地域のイベント・活動計画の策定

#### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

多くの方々にご参加いただき、最終的に次年度に向けたアイデアを多く頂けた。  
開催の案内や内容をより充実させることで、より多くの方にご参加いただけたと思うので、今後も改善を続けたい。

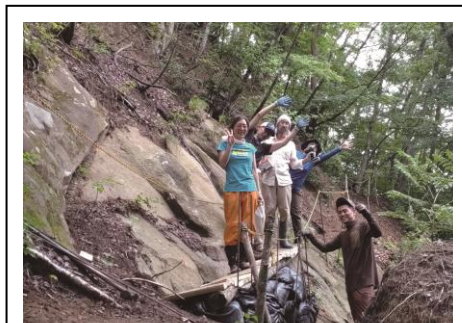
### 令和 4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小川村の古道・文化財整備およびeMTBによる体験型観光振興事業
事業主体 (連絡先)	非営利特定活動法人 美しい村小川・絆のネットワーク 上水内郡小川村小根山 8000-4
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,722,067 円 (うち支援金: 2,084,000 円)

#### 事業内容

北アルプスの景観と歴史のある村の特色を生かし、3つ古道整備、看板設置、パンフレット制作およびホームページ制作により、多くの方に里山を楽しんでもらう活動を実施。3古道を含めた村全体をカバーする eMTB を使った里山ハイキングを企画する。

- ・ 3 古道 (北アルプス青空散歩道、高戸谷道、女坂) の整備および看板設置
- ・ ハイキングイベント開催: 11 月 13 日 18 名参加
- ・ 3 古道ごと、および村全体のハイキングマップ制作
- ・ eMTB レンタルによる村内探索
- ・ 村内街道および神社仏閣などの文化財情報発信ホームページ制作



【古道整備の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 古道の村内外への周知
- ② 文化財の調査特定
- ③ 景観整備
- ④ eMTB およびハイキング観光客の増加

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 支援金を活用して、3 古道の整備が進んだ。
- ② 支援金を活用して制作したパンフレットを村内に配布し、SNS で拡散し、多数の入手希望者がいた。
- ③ eMTB 試乗会を実施し、試乗した方のほとんどが便利な乗り物と認識し今後も利用したいとの意見頂いた。
- ④ 3 古道沿いの城址、展望地を特定し、地主を見つけ出して交渉を行い山林整備が可能となった。
- ⑤ この活動によって村民も知らなかった古道が再認識された。

#### ※自己評価【C】

- 【理由】
- ① 古道整備に時間が取られてしまい eMTB を使った村内周遊活動告知が足りなかった。
  - ② SNS 発信活動が足りなかった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① 古道の危険箇所安全確保作業および支障木伐採を継続して進める。
- ② 城址および周辺の森林整備を進める。
- ③ 城址、神社仏閣などの文化財の紹介をホームページおよび SNS を通じて告知を継続する。
- ④ パンフレットを配布し、ハイキングおよび eMTB 利用を呼び掛け観光客の増加を図る。
- ⑤ ウォーキングラリーを企画して継続実施する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある